

2024年7月16日(火)発表
愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
担当 芸術情報・広報課(木村・竹田)
電話 0561-76-2873(ダイヤルイン)
E-mail geijo@mail.aichi-fam-u.ac.jp

愛知県立芸術大学芸術講座

クリティカル・ライティング・ワークショップ

「スピーキング・アウト! 書きたくないけど、どうしても伝えたい」

愛知県立芸術大学社会連携センターでは、広く県民の皆さまに芸術文化に親しんでいただくために、「愛知芸大芸術講座」を多数開催いたしております。このたびは、芸術講座クリティカル・ライティング・ワークショップ「スピーキング・アウト! 書きたくないけど、どうしても伝えたい」を開催いたします。

このワークショップではアジアで起きている社会問題に立ち向かう「言葉を軸とした創造的な文化実践」を参考にしながら、「書くこと」と、人前で「話して伝えること」を往還させる方法を実践的に学びます。「話すこと」と「社会・課題に関与する芸術を記述する(書くこと)」の実践と方法論の違いを参加者と共に考察することで、「書くこと」の苦手意識を克服し、さらに視野を広げることを目指します。

是非貴社にお取り上げいただきたく、お願い申し上げます。

【タイトル】 クリティカル・ライティング・ワークショップ

「スピーキング・アウト!

書きたくないけど、どうしても伝えたい」

【日程】 2024年8月31日(土)

【時間】 14:00から17:30まで(13:30開場)

【講師】 居原田 遥(インディペンデント・キュレーター)

【受講料】 無料

【定員】 10名ほど(事前申込:先着順)

【参加資格】 課題を提出できる方、8/31のレクチャーに出席できる方

【会場】 オルタナティブスペース Q SO-KO 2階 SEASUN

(愛知県名古屋市中川区外新町2-84)

【申込方法】 右記QRコードから。

【問合せ】 愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課 Tel. 0561-76-2873

URL: <https://www.aichi-fam-u.ac.jp>



申込フォーム

コンテキストカル・ライティング・ワークショップ スピーキング・アウト!

書きたくないけど、どうしても伝えたい


2024年 **8月31日** 土

14:00~17:30 (13:30開場)

場所 愛知県名古屋市
オルタナティブスペース Q SO-KO 2階 SEASUN

受講料 無料 | 事前申込制
(定員10名ほど・先着順)

参加資格 ● 課題を提出できる方
● 8月31日のレクチャーに出席できる方

申込方法 QRコード
申込フォームから 

愛知県立芸術大学 芸術情報・広報課

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114

☎0561-76-2873 (受付時間 平日 9:00~17:30)

URL <https://www.aichi-fam-u.ac.jp/>

- 主催:愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
- 企画:愛知県立芸術大学 社会連携センター

ACCESS

オルタナティブスペース Q SO-KO



名古屋市名川区外新町2-84

○地下鉄名港線「六番町」駅4番出口から徒歩11分ほど(各種バス路線もあり)

SEASUN

鈴木一絵が主宰する、東南アジアのアーティストの表現活動や文化を紹介するアート交流プロジェクト。

オルタナティブスペース Q SO-KO

築70年の倉庫を改装し、1階は美術施工チーム・ミラクルファクトリーの工房、2階はSEASUNが運営するイベントスペースとして2023年オープン。

事前課題

「共有・発信したい社会課題」について問題意識を簡潔に800字程度でまとめ、提出してください。

ワークショップ

レクチャーをふまえて、事前課題で提出したテキストを「スピーチ(演説) = ひとまえてその場で話す」という実践に応用・転換し、発表していただきます。

講師

居原田遥

(インディペンデント・キュレーター)

1991年生まれ。東京藝術大学博士課程在籍。沖縄をはじめとするアジアの政治・社会課題や困難と向きあう芸術文化の活かし方を研究しながら、アーティストたちと共同する。一般社団法人ドキュ・アタラン理事。「琉球の横顔―描かれた「私」からの出発」(沖縄県立美術館・博物館、2021)企画協力、「当意即妙―芸術文化の抵抗戦略」(京都芸術センター、2024)企画など。

社会課題に直面し、問題意識を主張しなくてはならないとき、そこで生きる言葉は時と場に依じて異なります。このワークショップはアジアで起きている社会問題に立ち向かう「言葉を軸とした創造的な文化実践」を参考にしながら、「書くこと」と、人前で「話して伝えること」を往還させる方法を実践的に学びます。「どうしても発信したいけれど、へ書くために言葉にすることが苦手だと感じる」人に参加してほしいワークショップです。